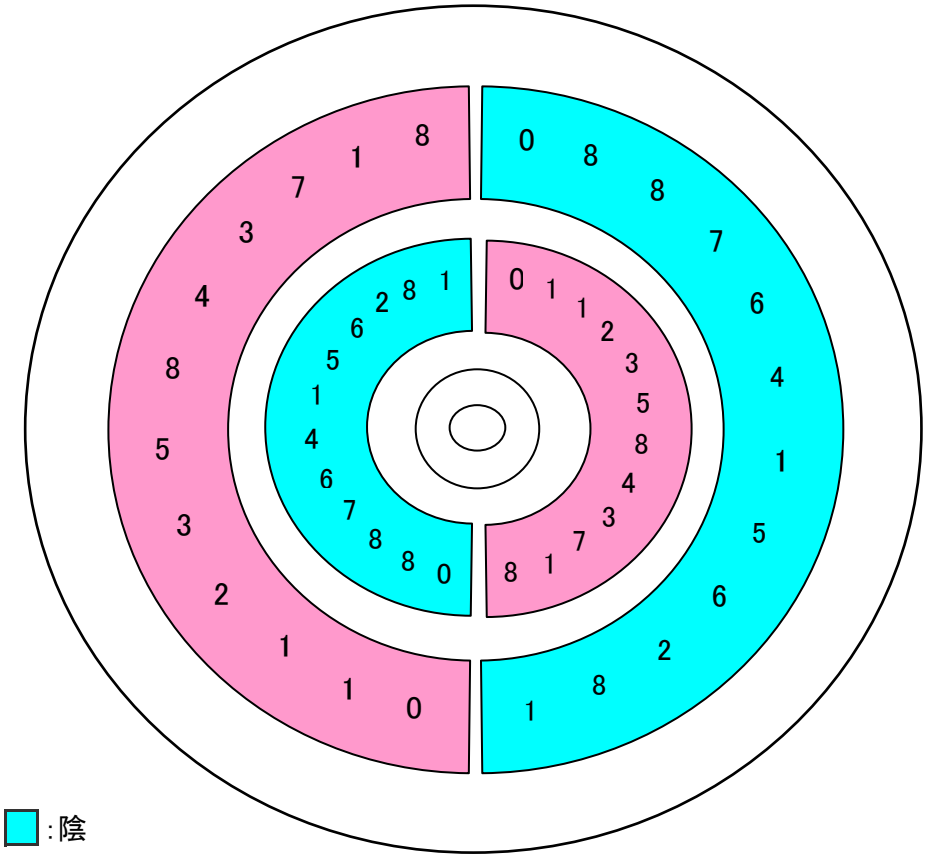
【 21世紀マンダラ 】

＜神聖方陣＞ [Divine Matrix]

F数列	Fmod9																						
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	1	0	1	1	2	3	5	8	4	3	7	1	8	0	8	8	7	6	4	1	5	6	2	8	1
1	1	0	1	1	2	3	5	8	4	3	7	1	8	0	8	8	7	6	4	1	5	6	2	8	1
2	2	0	2	2	4	6	1	7	8	6	5	2	7	0	7	7	5	3	8	2	1	3	4	7	2
3	3	0	3	3	6	0	6	6	3	0	3	3	6	0	6	6	3	0	3	3	6	0	6	6	3
5	5	0	5	5	1	6	7	4	2	6	8	5	4	0	4	4	8	3	2	5	7	3	1	4	5
8	8	0	8	8	7	6	4	1	5	6	2	8	1	0	1	1	2	3	5	8	4	3	7	1	8
13	4	0	4	4	8	3	2	5	7	3	1	4	5	0	5	5	1	6	7	4	2	6	8	5	4
21	3	0	3	3	6	0	6	6	3	0	3	3	6	0	6	6	3	0	3	3	6	0	6	6	3
34	7	0	7	7	5	3	8	2	1	3	4	7	2	0	2	2	4	6	1	7	8	6	5	2	7
55	1	0	1	1	2	3	5	8	4	3	7	1	8	0	8	8	7	6	4	1	5	6	2	8	1
89	8	0	8	8	7	6	4	1	5	6	2	8	1	0	1	1	2	3	5	8	4	3	7	1	8
144	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
233	8	0	8	8	7	6	4	1	5	6	2	8	1	0	1	1	2	3	5	8	4	3	7	1	8
377	8	0	8	8	7	6	4	1	5	6	2	8	1	0	1	1	2	3	5	8	4	3	7	1	8
610	7	0	7	7	5	3	8	2	1	3	4	7	2	0	2	2	4	6	1	7	8	6	5	2	7
987	6	0	6	6	3	0	3	3	6	0	6	6	3	0	3	3	6	0	6	6	3	0	3	3	6
1597	4	0	4	4	8	3	2	5	7	3	1	4	5	0	5	5	1	6	7	4	2	6	8	5	4
2584	1	0	1	1	2	3	5	8	4	3	7	1	8	0	8	8	7	6	4	1	5	6	2	8	1
4181	5	0	5	5	1	6	7	4	2	6	8	5	4	0	4	4	8	3	2	5	7	3	1	4	5
6765	6	0	6	6	3	0	3	3	6	0	6	6	3	0	3	3	6	0	6	6	3	0	3	3	6
10946	2	0	2	2	4	6	1	7	8	6	5	2	7	0	7	7	5	3	8	2	1	3	4	7	2
17711	8	0	8	8	7	6	4	1	5	6	2	8	1	0	1	1	2	3	5	8	4	3	7	1	8
28657	1	0	1	1	2	3	5	8	4	3	7	1	8	0	8	8	7	6	4	1	5	6	2	8	1
46368	0																						
75025	1																						
121393	1																						
196418	2																						
317811	3																						

＜螺旋モデル＞ [Helical Model]



：陽　：陰

＊**F数列＝フィボナッチ数列**：0,1,1,2,3,5,8,13,21,34,55,89,144,233,377、、、　＊**F系列**＝【0,1,1,2,3,5,8,4,3,7,1,8；0,8,8,7,6,4,1,5,6,2,8,1】

隣り合わせの数を足して次の数にする。 その場合、隣り合わせの比率は神聖比例（黄金比）に限りなく近づく。 **黄金比**＝ファイ＝**Φ≒1.618**

＊**一桁化**：ある数を9で割り、残った余りの数に置き換える操作。数論の「**mod 9**」に相当する（**モジュラー算術**）。

例えば、13は13÷9＝1余り4なので、4に置き換える。位に関係なく1＋3＝4と足して簡単に計算できる。（**ひふみ算術、カバラ算術**の伝統）

＜神聖方陣＞について

1）フィボナッチ数列を一桁化すると24項目毎の循環が現れる。これを「**Fmod 9**」数列と呼ぶとする。
2）「Fmod 9数列」は前半の12項目と後半の12項目に分けられ、陽と陰の関係が見出せる。
3）それを第一行と第一列に置き、九九算表のように掛け合わせ、mod 9処理すると神聖方陣ができる。
4）平面として見た場合も「陽」と「陰」をお互い重ねて足すと、全てが9となり、9=0となる。
5）縦・横に4種類の数の流れが観察される。1-8、2-7、3-6、4-5の順に**FLKM系列***と呼ぶとする。

＜ラセンモデル＞について

1）点対称の位置にある二つの数字を加えると9となり、9＝0でゼロに還元される。
2）陽と陰は磁石における＋と－の関係の様に、次の層になる場合は180度回転して収まる。
3）半ドーナツ状の紐は4組みでワンセットとなる。**トーラス（円環体）**のように拡散・収束する。
4）モデルはF系列(1-8)を使用しているが、それ以外のL，K，M系列でも同様である。
5）同系列では対称性が続くが、次の層に他の系列を組み合わせる場合は非対称となる。

URL：http://thinking-way.com

フィボナッチ数列のmod9化により出現した「神聖方陣と螺旋モデル」により、21世紀はメタ・サイエンスの時代に入った。

1） DNAが「4つの塩基構造」を持つ理由になるかも知れない。
2） 超弦理論で弦が「4つの基本振動パターン」を持つ理由になるかも知れない。
3） 素粒子論の「CP対称性の破れ」の理由になるかも知れない。
4） 藤原肇博士のホロコスミクス（Holocosmics）は東洋と西洋の叡智の結晶である。

Yoka

*FLKM系列＝（Fibonacci, Lucas, Ken, Michiko）Chain

2009.1.1-2012.5.5 “The 21st Century Mandala” 千々松　健（Chijimatsu Ken）